

『神の祝福③・聖霊なる神による保証』

'22/03/06

聖書箇所:エペソ人への手紙 1章 13-14節(新約 p.373)

神様は、ここにおられる皆さんを愛し…、皆さんを祝福しようとしてくださっています。何と、神様は…、三位一体なる神様の…、そのすべてを通して…、つまり、父なる神、子なる神のイエス・キリスト、そして、今日学ぶ、聖霊なる神様の…、それらすべてを通して…、私やあなたを祝福するために、実に、様々なことをなして下さっているのです。

私や皆さんが、この神様からの祝福をいただくために必要なことは、まず、この神様を信じ、受け入れることです。この、聖書が教える真の神様を…、自分が唯一、信じ仕えるべきお方として愛し、皆さんの心に迎え入れてくださることです。そうすることによって、あなたは、救いと罪の赦しを受けることができます。あなたを支配し…、地獄へ道連れにしようとしているサタンや罪から、あなたは解放され…、神様のおられる天国に行くことができるのです。それこそが、聖書の教える、「救い」です。

そして、もう一つ大事なことは、この神様の教えに耳を傾けて…、この神様の喜んでくださるように、あなたが歩んでいかれることです。そうすることによって、あなたは、神様からの懲らしめではなく、神様からの温かい祝福というものをいただくことができるのです。

命題: 聖霊なる神は、どのように私たちに祝福してくれるのでしょうか?

今日は、三位一体なる神様の第三位格であられる…、聖霊なる神様のお働きを、皆さんと一緒に見ていきたいと思います。一体、聖霊なる神様は、私やあなたと、どのような形で関わってくださり…、神様の祝福を分け与えようとして下さっておられるのでしょうか? そういったことを学ぶことによって、私や皆さんが、益々、神様に感謝し、神様をほめたたえる者となっていくことができることを期待します。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばであるエペソ 1:13-14 をお開きください。そこには、こう記されてあります。

13 この方であってあなたがたもまた、真理のこぼれ、あなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことにより、約束の聖霊をもって証印を押されました。

14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。これは神の民の贖いのためであり、神の栄光がほめられたためです。

I・人を 救い へと導いてくれる! (13節)

まず、みことばは教えます、聖霊なる神様が、私や皆さんのことを救いへと導いてくださる! って…。聖霊なる神様が、そのようなお働きをしてくださったから…、私や皆さんは、真唯一の神様を知ることができて…、そして、救われることができたのです。

①みことばを 与える ことによって…

ここ 13 節で、パウロは…、神の与えてくださる最高の祝福である、救いの方法について教えてくれています。つまり、どうやって、人が救われ得るのか…。罪の赦しを与えるために、聖霊なる神様が何をしてくださったのか…。ここで、パウロは、そういったことについて教えてくれています。それには、大きく分けて、2つのステップ(=段階)があることを、みことばは教えます。その…、第1段階は、みことばを与えるということによって、です。

まず、ここでパウロは、この手紙の宛先である、エペソや小アジアのクリスチャンたちのことを、『あなたが

た』と称しています。それは、前回に見た 12 節で…、パウロが、自分たちユダヤ人たちのことを、『キリストに望みを置いていた“私たち”』と表現したこととの対比です。つまり、どういうことかと言いますと、ユダヤ人たちは、古くから、救い主に関する預言を通して、ある程度、救いのご計画に関して知らされておりました。…では、一般には、どうやって、『救いの福音』というべき教えが入ってきたのかと言うと、イエス様の宣教がそもそもの始まりでした。マタイの福音書、15 章以降をご覧くださいと、そういった記事を見ることができます。まず、マタイ 15:21-22 で、『21 それから、イエスはそこを去って、ツロとシドンの地方に立ちのかれた。 22 すると、その地方のカナン人の女が出て来て…』と続きます。ここで言われている『ツロとシドン』とは、明らかに、シリアの一地方で、異邦人たちの土地のことです。だから、そこに…、異邦人であった、『カナン人の女が出て』来たわけですね。

だから、パウロは言います、『あなたがた異邦人も、キリストによって、『救いの福音』を聞いたでしょ?』って…。つまり、自分たちが救われるための、救いのメッセージ(=教え)のことです! そのことを、パウロはもう少し詳しく教えてくれています。それが、『真理のこぼれ』という表現です。『真理』…つまり、何が道理で…、どれが正しい教えなのか…。残念ながら、私たち人間は、そういった真理を、自分自身の研鑽や努力でもって、知ることはできません。だから、神様の方から教えてくださったのです! そういったことのために、イエス様が、この地上に来てくださったのです!

パウロは、ここで、ただ、『真理』とは言わずに、『真理の“こぼれ”』と言いました…。何故なら、神様は、私たちに、『真理』を伝えるために、『こぼれ』を用いてくださったからです。目にははっきりと見えないような、何らかの感情や感覚(=インスピレーション)ではありませんでした。また、何らかの不思議な経験といったような…、抽象的なものでもありません。はっきりとした、明確な、『こぼれ』でもって、私たちに、神様の真理というものを伝えてくださったのです! …そうでしょ!

例えば、イエス様は、はっきりと、『こぼれ』でもって、神様のメッセージを、私たちに伝えてくださいました。また、弟子たちも、イエス様の語られた『こぼれ』を…、あるいは、その教えを…、明確な『こぼれ』にして…、後世に残してくれました。それこそが、この聖書であるわけですね!

神様は、そういったようなみことば…、つまりは、聖書を用いて、私たちに真理を伝えてくださり…、人を救いへと導いてくださいます。だから、I ペテロ 2:2 には、こうあります、『生まれたばかりの乳飲み子のようになり、純粋な、“みことばの乳”を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。』って…。また、II テモテ 3:15 にも、こうあります、『また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。“聖書は”あなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。』とある通りです。みことばが…、つまりは、神の教えが、私たちに救いへと導くのです!

でも、皆さん、ご存知ですよね? この聖書を書き記した…、本当の著者はどなたであったのか? ⇒ ちよっと、皆さん。II ペテロ 1:20-21 をご覧ください。『20 それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない、ということです。 21 なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのこぼれを語ったのだからです。』⇒このように、聖書のみことばは、明確に、聖書を書き記した…、本当の著者が、聖霊なる神様だと教えてくれています! だから、みことばには一切、間違いがないのです。…聖霊なる神様が、神のみことばを書き記してくださったから…、私や皆さんに与えてくださったから…、私たちは、『真理のこぼれ』、すなわち、『救いの福音』を聞くことができたのです!

②みことばを 信じさせる ことによって…

また、聖霊の働きは、それだけに留まりません。聖霊なる神様は、私やあなたに、この…、みことばを

信じさせてくださるのです。それによって…、つまり、神様からのメッセージを信じることによって、私たちは救われるのです。

ここ 13 節でも、このようにあります、『この方によってあなたがたもまた、真理のことは、あなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことにより、約束の聖霊をもって証印を押されました。』って…。実は、この箇所からは、はっきりと知ることはできませんが、私たちが、この神様を…、神からのメッセージを信じてきたのは、聖霊なる神様のお働きによるのです。

だから、1 コリント 12:3 には、こうありますでしょ。『ですから、私は、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも、「イエスはのろわれよ」と言わず、また、聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です」と言うことはできません。』⇒つまり、聖霊なる神様が働いてくださって…、人は、初めて、「イエス様は私の主(=神)です！」と言うことができる！救われるのです！

このように…、私たちが救いに導いてくださるのは、神のみことばであり、聖霊なる神様です。そうすると…、ですよ。私たちは、人が救われるために、何をすべきなのでしょう？⇒神様に祈りつつ…、聖霊なる神様が働いてくださるように…、しっかりと、正しく、みことばを語っていくことであると、私は信じます。

ちょうど良い機会なので、ここで、ぜひ、皆さんにご理解いただきたいこと、また、協力していただきたいことについて、お話しさせていただきます。…実は、私は、例え、礼拝の場に、まったく新しい方が来られても、所謂、「福音」と言いますか…、つまり、真の神がおられることやそのことの説明、罪に関すること、具体的な裁きに関する教え、そして、救いの方法について、イエス様の十字架やその死と復活について…、それら“すべて”を、その礼拝メッセージの中で語ることを、必ずしも最優先とはしていません。それよりも、むしろ、正しく、神様のみことばを解き明かし、正しく伝えることの方を優先したいと思っています。

…と言いますのは、前から、何度かお話していますように、人を救うのは、私たちのメッセージでも、働きでもなく、100%神様の御業であると信じるからです。正直、私も昔、こう教わったことがあります。「ひょっとしたら、今日、礼拝に来られた人が、今度、みことばを聞く前に死んでしまうかも知れないから…」って…。ですから、ある時までは、どんな状況でも、新しい方が来てくださったら、1度のメッセージで、福音を…、つまり、人が救われるために必要な内容をすべてを話すよう意識していました。それこそ、食前の祈りの時でさえ、福音の説明をすべて入れるような形で祈ったこともあります(苦笑)。…でも、それって、新しい方からすると…、逆に、堅苦しく感じさせてしまうことの方が多いですよ。だって、食事を目の前にして…、それでなくても大勢で食べようとしているせいで、長い間、お預けをくらっているわけですよ。その上、食前の祈りで、長い祈りを聞かされるわけですよ。「何と、クリスチャンとは面倒な…」、逆に、そう思われてしまうのではないのでしょうか？

私たちが、これまでに学んできましたように…、救われる方は、神様が予め選んでおいてくださって、もう既に、神様は御存知なのです。間違いなく、その方は、生まれる前から…、いえ、『世界の基の置かれる前から』(エペソ 1:4)、神様の御手の中にあるはずなのです。そうでしょ？

そう考えますと、私たちの説明が足りなかったせいで…、あるいは、私の言葉が不十分であったために、救われるはずの方が救われなかつたりするということが、果たして、有り得るのでしょうか？良いですか、皆さん？どうか、誤解しないでください。私は、みことばを語らなくても良い、と言っているわけではありません。個人伝道する時に、十字架や復活の話をしなないというのでもありません。そういったことは、必ず話します。

でも、例えば、パウロは、当時、エペソの牧会をしていたテモテに、こう教えるわけです。Ⅱテモテ 4:2、『みことばを宣べ伝えなさい。時が良くて悪くてもしっかりとやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、

責め、戒め、また勧めなさい。』って…。「福音を宣べ伝えなさい！」と、パウロは言いませんでした。『みことばを宣べ伝えなさい！』と、パウロは、牧会者であったテモテに命じたのです。

このように、神様が私たちに託された責任は、「みことばを…、福音を語っていくこと」であって、決して、「人を救うこと」ではありません。それは、私たち人間の働きによるものではなく、神様の御業だからです。確かに、ローマ 10:14-15a に、『14 しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じていることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。15 遣わされなくては、どうして宣べ伝えることができるでしょう。…』とあるように、間違いなく、私たちは、みことばを…、また、福音を語っていかねばなりません。でも何度も言うように、その福音を信じさせてくださるのは、聖霊なる神なのです！

③救われた 証拠 として…

今日のみことばに戻りましょう。13 節の最後には、『約束の聖霊をもって証印を押されました。』とあります。つまり、神様が人を救ってくださったら…、神様は、その人が救われた証拠として、聖霊なる神様を、その人の内に住まわせてくださるのです。

ここで、『証印を押されました』とありますが、元々、このギリシヤ語の言葉(σφραγίζω)には、「封印をして、しまっておく」という意味がありました。…この当時、何か荷物を送る際、送り主から送り先に間違いなく送り届けられるようにと、封印が施されたのです。封印といっても、2000 年も前のことですから、最先端の錠前とかでなくて…、例えば、持ち主を明らかにするような、目印の類であったそうです。すると、荷物を開けようとしても、それがばれてしまうし…、その持ち主が有名であればあるほど、その効果は強まったそうです。

みことばは教えるのです、救われたあなたには、『聖霊』という神様の証印が…、封印が押されている、って…。誰も、あなたを…、神様から無理に奪ったりすることはできないのです！だから、イエス様も、それと全く同じことを教えてくださっていますでしょ。例えば、ヨハネ 10:28-29、イエス様が救いについて、教えてくださっているみことばです。『28 わたしは彼ら(=イエス様を信じて、救われた者たち)に永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。』

お聞きになってくださいました？⇒私たちが、信じ仕えている御方は、すべてを創造された偉大なる神様！全知全能の神様です！誰であろうと、その神様のもとから、私たちが奪い去ることなどできません。だから、ローマ 8:38-39 のみことばも、こう教えるのです！『38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、39 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちが引き離すことはできません。』って…。私たちが信じ仕えている神様は、『すべてにまさって偉大』なのです！だから、何者であろうと、その神様の御計画を変えたり…、あるいは、神様が皆さんに与えようとしておられる祝福を…、ほんの一部分でも奪い去ったりすることはできないのです！…どうか、そういったことを忘れないでください！

Ⅱ・クリスチャンを 天国 へと守り導いてくれる！(14 節)

2 番目のポイントを見ていきましょう。…みことばは教えます、聖霊なる神様は、そうして救われたクリスチャンたちを、間違いなく、天国へと守り導いてくださる！って…。先程までのポイントは、言わば…、聖霊なる神様による、救いに至るまでの説明です。そして、今度は、聖霊なる神様による成長の保証です。聖霊は、私たちクリスチャンを天国に行くまで、確実にお守りくださり…、導いてくださるのです！

14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。これは神の民の贖いのためであり、神の栄光がほめたたえられるためです。

①クリスチャンを 成長 させてくださりながら…

ここ 14 節のみことばは教えてくれています、「聖霊こそが、私たちの救いの保証だ！」って…。ついさき見た 13 節でも、同じようなことが教えられていました。しかし、目には見えない聖霊を…。どうして、自分に与えられているって、確信することができるのでしょうか？パウロは言うのです…。いえ、パウロだけではありません。聖書全体が教えてくれています、本当の信仰とは…。聖霊の伴う救いには、大きな変化が…。言い換えれば、成長がある！って…。聖霊なる神様は、私たちクリスチャンのことを成長させてくださるのです。

じゃあ一体、どのような変化(≒成長)があるのでしょうか？⇒まず、間違いないことは、マタイ 7 章の「山上の説教」でも学んだように、その人の生き方です。本当に救われた者は、自分中心に生きていこうとするのではなく…。自分を救ってくださった神様を愛し、その神様に従って生きていこうとするのです！それについては、もう何度も説明してきたつもりなので、もう今日は詳しくお話しする必要はないでしょう。

また、この聖霊は、私たちクリスチャンに、自分が救われているかどうかの“救いの確信”も与えてくれます。だから、Iヨハネ 3:17-24 に、こうありますでしょ？『17 世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。18 子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行いと真実をもって愛そうではありませんか。19 それによって、私たちは、自分が真理に属するものであることを知り、そして、神の御前に心を安らかにされるのです。20 たとい自分の心が責めてもです。なぜなら、神は私たちの心よりも大きく、そして何もかもご存じだからです。21 愛する者たち。もし自分の心に責められなければ、大胆に神の御前に出ることができ、22 また求めるものは何でも神からいただくことができます。なぜなら、私たちが神の命令を守り、神に喜ばれることを行っているからです。23 神の命令とは、私たちが御子イエス・キリストの御名を信じ、キリストが命じられたとおりに、私たちが互いに愛し合うことです。24 神の命令を守る者は神のうちにおり、神もまたその人のうちにおられます。神が私たちのうちにおられるということは、神が私たちに与えてくださった御霊によって知るのです。』

⇒ここのみことばは、私たちの内に「神が住んでくださっている！私は救われている！」ということ、誰が教えてくれるとありました？…24 節の最後、『御霊によって知る』わけでしょ！私たちが、同じ主にあつて救われた兄弟姉妹のことを言葉や口先だけで愛するのではなく…。行ないと真実をもって愛する時、私たちの内に住んでくださっている御霊が、私たちに「自分たちが真理に属している！つまり、救われている！」ということを教えてください、神様だけが与えることのできる平安に満たされるのです！

以前にも、皆さんにお話ししましたが、救いの確信を与えるというのは、私たち人間のなすべき働きではありません。それは、もはや、神の…。聖霊なる神様の領域なのです。だって、私たち人間の一体誰が、「この人は間違いなく救われている！」って“保証”できます？…多分、皆さんの周りにも、「この人は救われているはずだ！」と思っていた人たちが、ある時に、教会や神様から離れていってしまっ、信仰を棄ててしまう、みたいなことを経験されたことがありますでしょ？私たちができること…。また、私たちが話すべきことは、みことばがどう教えているかであって、安易に、人の救いを保証すべきではないのです！このように、聖霊は、私たちのクリスチャン生活には欠かせない御方であって…。私たちを成長させてくださり、実に様々な助けを与えてくださるのです。

実は、今日のみことばの 14 節で、『保証』と訳されてある言葉(ἄρραβών)には、この当時の、「手

付け金」という言葉が使われてあります。つまり、私たちが、『真理のことば、…救いの福音を聞き、またそれを信じたことによって』(13 節)、「手付け」として、聖霊が与えられたということは、今後、時至れば、約束された『御国を受け継ぐ』ことができるという“保証”なのです。また、この言葉は、現代のギリシヤ語では、「婚約指輪」を指すこともあるのだそうです。私たちクリスチャンは、キリストの花嫁として…。もう既に選ばれています。だから、キリストと共に、御国を受け継ぐことができるのです！だから…。エペソ 5 章の後半でも、夫婦の関係について語られている中で、キリストと教会との関係が、何度も良い例えとして…。あるいは、模範として挙げられているのです。そういったことは、黙示録 19:7 や 21:9 でも教えられています。私たちクリスチャンは、言わば、キリストと婚約期間中にある婚約者なのです！…だから、分かりますよね？どうして、私たちがイエス・キリスト以外の神様になびいたり…。愛したり…。仕えたりすべきでないかが…。

ま、このように、私たちの救いは、天の神様が…。特に、聖霊なる神が保証してくさるのです。ねえ、皆さん、感謝だと思いませんか？だって、もしも、私たちが、自分の力や努力、あるいは、救われた後の行ないで、救いを保っていきなさい！と言われたら、間違いなく、誰一人救われ得ないでしょう。…でも、実際は、そうではなく、聖霊が私たちの救いを保証してくさるのです。

②クリスチャンを通して、神の 栄光 を現わしてください！

前にも言いましたように、ここエペソ 1:3-14 のみことばが教えてくれている…。神様の究極のみことばと言うか、その目的は、神様御自身の栄光が現わされることです。神様は、私たちクリスチャンを通して、神様の栄光を現わしながら、私たちを天国へと導こうとしてくださっておられるのです。

良いでしょうか、皆さん？今、皆さんには務めが与えられているのです。それは、神様の栄光を現わす…。神様の素晴らしさを現わしていく！という務めです。私たちは、救われたからと言って、自由に…。好き勝手に生きていくべきじゃないし、それは、私たちの内に住んでおられる聖霊が悲しまれることなのです。エペソ 4:30 に、『神の聖霊を悲しませてはいけません。…』とあります。恐らく、これは、その文脈で語られているような…。悪いことばを口から出すことや、無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしり…。などといったような悪意を指すと思われる。救われたクリスチャンは、そういったことをした時に、聖霊なる神様が、あなたを責めて…。「それは間違っているよ！良くないよ！」ということを教えてください。

果たして、皆さんは今、神様の栄光のために生きておられますか？以前に、お話ししましたように、神様が、私に良いと思えることをしてくださったから感謝する…。だから、神様を愛していこうというのではなく…。例え、自分の思い通りに神様が動いてくださらなくても、神様は、最高の愛をもって…。あるいは、最善なる御計画に沿って判断し、行動しておられるのだから、私はそれを信頼し…。神様のしてくさることをすべて感謝し、神様をほめたたえていこう！となっていくべきなのです。

だってね、皆さん。私たちの前に、どんなことが起こったとしても…。それが、究極的に見て…。長い…。永遠という観点から見て、良いことであるか、悪いことであるかの判断なんて、誰もつかないじゃないですか！そうでしょ！

また、私たちは、なかなか、自分しか見えない…。自分の立場でしか判断できない…。そうじゃありません？なかなか、すべてのことを、もっと広い視野で判断することなんて、なかなかできません。だから、神様がおっしゃるのです、「わたしが最善をなす！わたしが、わたし自身の持つ…。義と聖さと愛と憐れみにおいて判断し、最高のことをなす。わたしは、あなたの神として…。あなたの周りに起こる様々なことをコントロールする。だから、あなたは、いつも喜んでいなさい。すべての事について、感謝しなさい。」って…。私たちクリスチャンは、それができるのです！そういったことのために…。天の神様は、私やあなたに、聖霊なる神様を与えてくださったのです！

<励ましの言葉>

ところで、皆さん。新約の時代って、いつから始まったのか、ご存知でしょうか？教会の時代のことです。言い換えれば、旧約の時代と新約の時代を大きく分けた時の…、旧約の時代、律法の時代が、いつ終わったかです。実は、聖書全体を見た時、明らかに、神様の…、人間に対する取り扱い…、信仰者に対する取り扱いなどが、そこで大きく変わっていることを見ることができます。だから、私たちは今、旧約の時代にユダヤ人たちがしたように、安息日を守ったり、いけにえを捧げたりしないわけでしょ？そういう区分を、私たちは、「dispensation(=分配、(神の)摂理)」などと言って、区別しています。

さて、教会の時代は、いつ始まったのでしょうか？新約聖書に書かれているような内容が起こった時でしょうか？イエス様がお生まれになった時期…、あるいは、イエス様が公生涯を始められた時期…、それとも、イエス様が復活された時でしょうか？皆さんは、いつ、教会の時代が始まったと思われます？

⇒実は、ペンテコステの日に、教会の時代は始まったのです(使徒 2:1)…。…どうしてかと言いますと、その日を境に、聖霊なる神様が降臨して下さった…、つまり、この地上に来て下さって…、イエス様を救い主と信じる…、すべての信仰者の内に住んでくださるようになったからなのです。教会とは、聖霊の働き(=聖霊のバプテスマ)によって、キリストの体(の一部)とされた者たちのことです。それが始まったのが、あの…、ペンテコステの日なのです。イエス様は、『助け主』であられる聖霊なる神様について、ヨハネ 16:7 で、こんな風に説明してくださっています。『しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところに遣わします。』⇒このイエス様の約束が、あのペンテコステの日に成就したのです！

じゃあ、それまで、聖霊なる神様は、何をしておられたのでしょうか？⇒今日、私たちは、それを詳しく見ていくことはできませんが、実に、いろんな個所で、聖霊なる神様のお働きを見ることができます。例えば、イエス様の生涯ですと、イエス様の誕生に際して…(マタイ 1:18,20)、また、イエス様のバプテスマの時に…(ルカ 3:22)、あるいはまた、イエス様が荒野でサタンの誘惑を受けられた時にも…(マタイ 4:1)、聖霊は、イエス様と共におられ…、様々な働きをしてくださいました。

また、聖霊なる神の働きは、旧約聖書でも見ることができます。例えば、聖霊は、あのギデオンに勇氣を与え…(士師記 6:34)、また、預言者たちに語るべき言葉を与えました…(エゼキエル 2:2;11:5;ゼカリヤ 7:12)。また、特に、有名なのは、イスラエルの初代の王、サウル王様との関わりでしょう…。旧約の時代、『主の霊』とも呼ばれていた聖霊なる神様は、サウルが、預言者サムエルから、王としての油注ぎを受けた時、サウルの『上と下』られました(I サムエル 10 章)。しかし、その後、サウル王が罪を犯したことによって、聖霊は、サウル王『を離れ』ます(I サムエル 16:14)。そういったことを、サウル王の近くにいた、あのダビデ王は知っていたのです。だから、ダビデ王は、自分の犯した大きな罪を悔い改め、神様の清めを請うた時の…、詩篇 51:11 で、『私をあなたの御前から、投げ捨てず、あなたの聖霊を、私から取り去らないでください。』と願ったのです。

いかがでしょう、皆さん。…当然のことですが、聖霊なる神様も、真の神様であられるが故に、永遠の昔から存在され、全能でもあられます。旧約の時代、聖霊なる神様は、ある意味においては、今と同じような働きもしておられましたが、今のような形では…、つまり、すべての信仰者の内に居て下さって…、私たちを励まし…、私たちに語るべきことばを教え…、私たちの罪や様々な問題を指摘して“はくれません”でした。それは、今の時代…、教会の時代だけであって…、言わば、今の時代のクリスチャンだけに

与えられた“特権”なのです！…しかし、このしばらく後、イエス様がこの空中にまで迎えに来て下さって、その後、患難時代が起こって、イエス様を信じる信者が一旦すべて、この地上から取り去られる(II テサロニケ 2:6-7)と、時代は、また、旧約のような時代に戻ります。その時、聖霊なる神様は、今と同じように、私たち信者に内住して下さらないのです！

ですから、どうか、神様の恵みに感謝してください！神様が、如何に、素晴らしいお方で…、愛と憐れみに満ち…、今、私たちを最高の環境に置いて下さっているかを知り、神様を、心からあがめるものであってください。心から、お勤めいたします。

そうして、まだ、イエス様を信じておられない皆さん。神様は今、皆さんに対しても、素晴らしい恵み、救いを与えようとして下さっています。どうか、この神様の前に、心を開いて、1日も早く、この神様を信じ救われていただきたいと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。